

編集後記

最近、教育界隈やビジネス界隈で「VUCA」という言葉をしばしば耳にするようになった。自由国民社の二〇一九年版『現代用語の基礎知識』によれば、「VUCA」とは「不安定 (Volatility) + 不確実性 (Uncertainty) + 複雑性 (Complexity) + 曖昧性 (Ambiguity) の頭文字からの造語であり、欧米で現在の社会経済環境を表す言葉とのことである。ちなみにこの語が『現代用語の基礎知識』に登場するのは二〇一六年版からであるが、同年開催されたダボスでの世界経済フォーラムにおいて、「VUCA World」という表現が繰り返し用いられたことが大きな理由であろう。なお、リニューアルされ大幅にページ数が減った二〇二〇年版以降にはこの語は収録されていない。

二〇一六年といえば、イギリスで欧州連合離脱の是非を問う国民投票が実施され、アメリカ合衆国大統領選挙でドナルド・トランプが勝利した年である。欧州は前年の二〇一五年から難民危機に直面していた。そして二〇一九年二月以降、コロナ禍が世界を襲い、我々の社会のひずみや矛盾を顕在化し続けている。まさに VUCA と形容するに相応しい時代である。

しかし改めて考えてみると、有史以来、不安定で不確実で複雑で曖昧でなかった時代など存在したであろうか。我々の時代だけが特別なわけではなく、人類は常にそのような状況を生き抜いて

きたのではないだろうか。だとするならば、我々が現在成すべきことは、何か特別なことではない。自らの頭で考え、決断し、責任を負う覚悟を決める。この目新しさのない、しかし困難な課題に、心を折ることなく挑み続けることである。不安定で不確実で複雑で曖昧であるということは、世界の行く末を我々の手で変えることができるという希望でもあるのだから。

本号には近代文学から一本、日本語学（古典語）から一本、日本語学（現代語）から一本、計三本の研究論文が収録されている。大学という研究と教育の場において、我々が成すべきことを成そうとしている姿を感じ取っていただけられることを願ってやまない。

（山吉）